
壺の魔神

海無 七河

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

壺の魔神

【Nコード】

N7365X

【作者名】

海無 七河

【あらすじ】

私は壺の魔神。

借金に苦しむ私の仕事は、人間の叫びを聞くこと。
今日もまた、叫びが壺に吸い込まれていく……。

※一話あたり約3分で読める話をご用意しています。

1. 愛って・・・(前書き)

意味のわからない新連載を始めました。
覚悟はいいですか・・・？

1. 愛って・・・

私は壺の魔神。

とある街のとある公園に置かれた壺の中に住んでいる。

別にランプの魔神よろしく、壺をこすられると外に出てくるわけでもなく、ただ壺の中に潜んでいるだけである。

私の仕事は人間の叫びを聞き、それにコメントをすることだ。
今日もまた、壺に向かって叫ぶ人間がやってくる・・・。

『何これ？ 【あなたの叫びたいことを壺の中に叫んでください】
？』

おや、誰かがやってきたようだ。
見た感じ二十代後半のOLみたいだ。

『とりあえずやってみようかな・・・』

『愛って何でしたっけ〜〜〜！』

・・・それはまた、難しい質問だな。

道端の花を愛でるのも愛。
家族を大切にするのも愛。
人によっては殴られるのもまた愛。

・・・最後は特殊な人だけだな。

まあ、その何だ。

結論は「愛の形は人それぞれ」ってことか。

私も上司に陰口叩かれるのを愛として受け止める・・・ように努力している。

あの野郎・・・人のことネチネチ言いやがって・・・。

っと・・・それはこちらの話だ。

とにかく私に言えることはこれだけだ。

強く、生きろ。

OLは帰っていった。

ふう、今日も働いた。

ポケットとしていたら、手紙が届いた。

差出人、上司。

「先月のノルマ未達成。
よって10%減俸。」

・・・あ。

むなしいわあ。これ。

壺の魔神の生活はまだまだ続くー。

1. 愛って・・・（後書き）

すみませんでした！

初めまして、またはいつもお世話になってます。

海無七河という者です。

さて、この「壺の魔神」は気軽に読めるをモットーに短い話を沢山連載しようと思います。

・・・まだ、「水鏡の向こう側」も終わってないのに。

気まぐれで更新するのでいつになるかわかりませんが、次回の更新も是非ご覧ください！

2. 背後を・・・(前書き)

センスは・・・皆無！

センス欲しいなあ。

2. 背後を・・・

私は壺の魔神。

約200万円の借金返済の為、今日も今日とて壺の中で人間の叫びを聞き、コメントをしていく。

今日も誰かがやってきた。

帰宅途中の高校生男子である。

竹刀袋を持っているところからして、剣道部員だろう。

真面目そうな顔をした・・・雰囲気としては武士。

『何か叫べばいいのか？』

壺を見て武士（私命名）はつぶやいてから、

『やってみるか』

おもむろに壺を手を持つ。

そして、

『背後をとられると落ち着かないのだが！』

叫んだ。

・・・武士よ。

お前は外見だけじゃなく、中身も武士なのか。

常に気を張っているのはいいが・・・現代日本において、そうそう背後から切りかかれることはないぞ。

人通りの少ない道とかは要注意だな。

まあ・・・何だ。

もう少し人を信用してみたらどうなんだ。

満足したのか、武士は帰っていった。

・・・今日もよく働い・・・！？

誰だ！私の背中を突然叩いたヤツは！

・・・ってお前は「チャイルドラインの電話の魔神」じゃないか。
相変わらず長い名前だな。

何？

小学生のイタズラ電話が多くてだるい？

って勝手に愚痴り出すな！

私は早く寝たいんだ！

2. 背後を・・・(後書き)

チャイルドラインの電話の魔神は受話器に潜んでいます。

どうも。ご覧頂きありがとうございます。

相変わらずセンスもへったくれも無いネタですみません！

次回も是非ご覧下さい。

寒くて・・・(前書き)

相変わらずの残念クオリティーです

寒くて・・・

私は壺の魔神。

世界を股に掛け、今日も今日とて壺の中に潜んでいる。

・・・矛盾しているじゃないか。

所詮私は壺の魔神である。

さて、今日も誰かが現れた。

寒くなってきたせいか、人間達も厚着をしている。

今日は中学生くらいの少女だ。
マフラーを巻いている。

少女壺を手に取り、叫んだ。

『寒くて死ぬっ！』

うん・・・。

気持ちは痛いほどわかるが。

安心しろ。

そう簡単に人は死なん。

というかそんなに寒いなら足を晒さなければ良いだろう。

どうしてそんなに短いスカートでいられるのか私にはまったくわからない。

冷えると体にも悪いから気をつけたほうがいいぞ。

・・・こんなところか。

少女は相変わらず寒そうにしながら帰っていった。

私もそろそろ帰ろうとしよう・・・ん？

ああっ!？

壺にヒビが入っている！

最近寒いのはこのせいか・・・隙間風が・・・。

・・・とりあえず修理道具を持ってこよう。

寒くて・・・(後書き)

寒いですね・・・。

お近くに壺があつたらあなたも叫んでみてください。

寒さは和らぎませんが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7365x/>

壺の魔神

2011年11月10日19時00分発行